

2024年9月3日（火）開催 オープンハウス盛大に終了！

当日はあいにくの天気にもかかわらず、50名を超えるたくさんの方々に弊社オープンハウスにご来場いただきました。

今回導入した新印刷機をはじめとする各機器はいかがだったでしょうか？

「品質」「生産性」「環境」にこだわった各機種を、多くの方が熱心にご鑑賞いただいていた印象で、時には熱い質問にタジタジになる場面もありましたが、私たちも大変勉強になりました。

また、中央区のアクセス抜群な場所の、限られた工場スペース内でこれらを駆使していることに驚かれた方も多かったようで、今回のオープンハウスが皆様のお役に立てたのではないかと考えております。

今回の設備更新後はまたギアを上げて、これら設備を稼働していかなければなりませんので、引き続きご支援ご協力をいただければと思っております。

今回、ご来場ご協力いただいた皆様方、本当にありがとうございました。

お仕事の依頼、工場見学は、お電話でもメールでも随時承っておりますのでお気軽にお問い合わせください。（大成印刷株式会社 03-3669-4941）



A 全判2色両面印刷機 RMGT 920PF-2（リョービ）



紙積機 PJH-9（工藤鉄工所）



CTP ACHIEVE T400 + SONORA CX II（コダック）



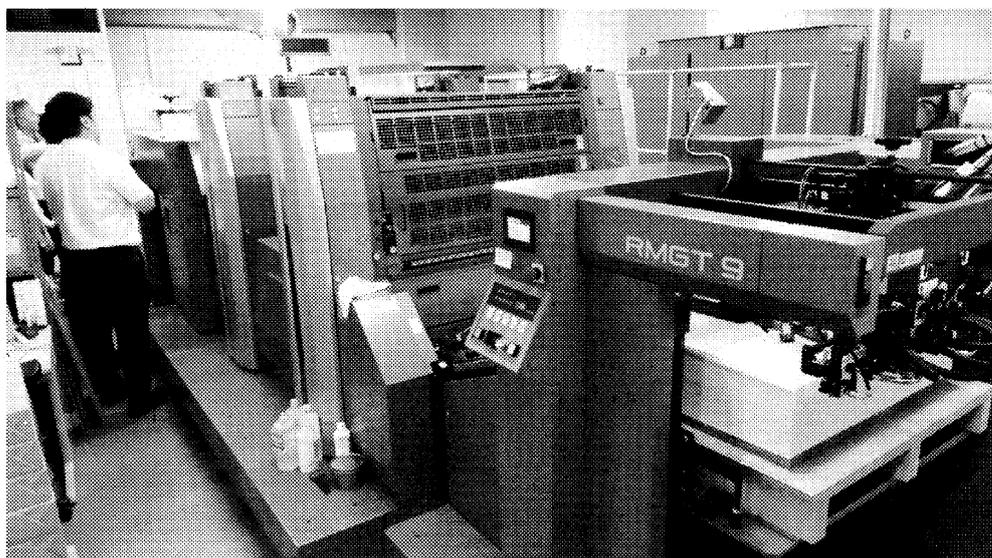
開催祝いのお花、ありがとうございました！

大成印刷

RMGT A全2色機など導入

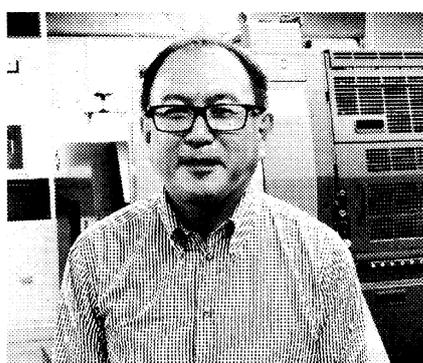
生産力向上、省エネに成果

都心生産拠点の優位性強化



導入された「RMGT 920PF-2」

大成印刷（古畑武郎社長、東京都中央区）は8月、リョービMHIグループ、リックテクノロジーズの片両面兼用A全判2色機「RMGT 920PF-2」を導入、9月3日にはオープンハウスを開催した。



古畑社長

今回のオープンハウスの中心となる「RMGT 920PF-2」は東京都の「躍進的な事業推進のための設備投資支援事業」を活用し、海外メーカー、

の菊半の印刷機との置き換えで導入したもの。これにより消費電力を削減し、生産性が向上した。また、印刷機の導入と併せて、ホリゾンの中綴じラインにカメラ付き丁合機を「ものづくり補助金」を活用して導入し、生産性の向上だけでなく、製本工程でのミスの削減にも対応した。

さらに、紙積みや反転の労力削減のため、工藤鉄工所のコンパクトパイロジョガーを導入している。この一連の設備更新により、同社は生産性を向上させて小ロット・短納期への対応力を高めながら、現場の労働負荷の削減、省エネを実現させた。同社では環境対応にも取り組んでおり、いち早くコダックの無処理版を

導入して自現機を撤廃し、プリプレス工程でのCO₂削減、廃液と自現機のメンテナンス作業をゼロにしている。さらに今年1月にはコダックのプレートセッターをバージョンアップ、大幅に消費電力を削減した。

また、社内の照明設備はすべてLEDに切り替えている。

オープンハウスでは、古畑社長や同社の社員だけでなく、メーカーも説明員として協力。来場者に機械の特長を説明し、質問に答えた。

若い人材の獲得にも期待

古畑社長は「茅場町という立地は顧客にとって、も立合いなどが簡単で、当社の強みだと思っている。今回の設備更新は、生産性の向上や省エネに取り組み、環境や現場の負荷を減らして、この人手不足の中、若い人にも立地と併せて当社を選んでもらいたいという意図もある」と話す。